

7月24日、裏高尾日影林道から小仏城山登山の第2弾。登りの時、コース中央の車止めゲートから少し登った所でアオバトの声を聞いて気をよくしました。下りの時、何とほぼ同じ場所で道端から1羽の鳥が飛立ち、林道上横枝に止まりました。双眼鏡で確認するとずばりクロツグミのオス、餌を口一杯に咥えていました。その後クロツグミは近くのヒナが待つ巣の方へ姿を消しました。

紅葉台



新聞

第254号

2026年

10月2日

発行人：関谷 孝

季節のたより キカラスウリ



今回は「キカラスウリ」です。殆どの方が眼にするのは、秋から冬になると赤く熟した果実をつるからぶら下げるように実らせる「カラスウリ」だと思います。カラスウリの花は、丁度夏の今頃、日が暮れると

開花し、朝には閉じてしまう一夜花です。真白なレースのような不思議な花を咲かせます。今月とりあげるのは、「カラスウリ」ではなく、「キカラスウリ(黄烏瓜)」です。キカラスウリも夏の今頃の季節に日没後から開花する夜の白い花です。違いはカラスウリが「朝には花を閉じてしまう」のに対し、キカラスウリは「翌日の午前中から午後くらいまで開花し続ける」ことです。添付の写真は昨年(2025)の7月31日に八王子の奥高尾にある小仏城山の山頂で撮ったものです。猛暑の中、日影林道を登って行き、山頂に着いたらこの花が咲いていました。日中に咲いていたので「キカラスウリ」に間違いありません。この花に出会い、疲れを忘れ必死に写真を撮った1年前が懐かしく思い出されます。カラスウリの果実は10月頃から熟して赤く変化しますが、キカラスウリの実(果)は12月ごろ黄色く色づきます。果実は球形、またはアーモンドのような形です。このため細長くて小さめの赤いカラスウリの実と区別できます。キカラスウリは地下にデンプンを多く含む塊根を作ります。かつてキカラスウリの塊根に含まれるデンプンは天花粉(テンカフン)と呼ばれ、子どもの「あせも」などの予防に用いられていました。キカラスウリの花言葉は「平凡の非凡」だそうです。ありそうでない、平凡に見えてそうではないキカラスウリの特徴にちなんでいるのでしょうか。

粕谷和夫 kasuya.kazuo688@gmail.com

八王子市天神町 3-6 (090-6125-5769)

八王子・日野カワセミ会 <http://kawasemi.main.jp/>

八王子里山クラブ 稲の不耕起栽培実践中

粕谷和夫の観察日記



7月22日、川町谷戸で野鳥カウント中に道端でムラサキツクサに似ているが、少し違う花が咲いていました。図鑑で調べてもはっきり分からないが、とりあえずオオムラサキツ

クサではないかと思いました。どなたか正しい名前を教えて頂ければ有難いです。本家のムラサキツクサは園芸種で庭に植えられていましたが、今ではすっかり野生化(雑草化)しています。高校時代、生物の時間に先生からムラサキツクサの花粉を顕微鏡で見せてもらった時の花粉の躍動的な動きが忘れられません。

7月24日、裏高尾日影林道から小仏城山登山の第3弾です。写真上は未熟のアケビの実二つ、その左上の房状の実(果)はキブシです。写真下はタマアジサイです。園芸

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしております。

種のアジサイは梅雨明けとともに花は終わったが、野生



のタマアジサイは高尾山の宝物、夏に花盛りになります。この写真に様に「玉状の蕾」が割れて花が開き出したところが何とも美しいですね。

7月24日、裏高尾日影林道から小仏城山登山の第4弾です。毎年夏に小仏城山に登る



と山頂でメハジキの花が出迎えてくれる。今年も咲いていました。

シソ科の花は種類が多いが、メハジキは真っすぐ上に伸びた茎から細い葉が水平に伸びて葉柄のもとに花がびっしりつく姿は独特で清々しく感じます。「短く切った茎を脇に挟んで飛ばす子供の遊びからメハジキソウ(目弾草)と名付けられた。」とのことですが、私は子どもの頃そのような遊びをしたことはありません。



7月28日-29日浅間山の西北にある高峰高原・池の平に行ってきました。標高2000mで涼しかったです。5回にわたり自然観察の結果をお届けします。先ず露天風呂、宿を出て林の中を50m進むと雲上の露天風呂がありました。時は早朝、視線の先に虹が出ていました。林の中か

らはウグイスとホシガラスの声が聞こえてきました。写真のモデルは今回の同行の仲間で許可をもらっての登場です。



7月28日-29日高峰高原・池の平の

第2弾です。高峰温泉の庭には野鳥の餌台があり、色々の鳥がやって来ました。宿のロビーからガラス戸越しに観察できます。ホシガラス2羽が間をおいてやってきました。この鳥はカラスの仲間

ですが、通常のカラスと雰囲気は全く違います。主に標高2500m以上のハイマツ帯にいるホシガラスが2000mの高峰高原にいるのに驚きました。ここにはカラマツが多いので、この松ぼっくりを食べているのかも知れません。

7月28日-29日高峰高原・池の平の第3弾です。高峰温泉の庭の餌台にリスも2頭やってきました。警戒心がとても高いリスですが、ここではリラックスしています。前足をうまく使って餌を食べている姿がとても可愛いですね。高尾山で見かけるニホンリスは灰褐色ですが、この赤褐色は夏毛だとの説明を宿のフロントの方から聞きました。



7月24日、裏高尾日影林道から小仏城山登山の第2弾。登りの時、コース中央の車止めゲートから少し登った所でアオバトの声を聞いて気をよくしました。下りの時、何とほぼ同じ場所で道端から1羽の鳥が飛立ち、林道上横枝に止まりました。双眼鏡で確認するとずばりクロツグミのオス、餌を口一杯に咥えていました。その後クロツグミは近くのヒナが待つ巣の方へ姿を消しました。

ANAさんと仲間たち♥人とつながる居場所づくり

ANAさんは、今、親の介護をしています。そんな地域とのつながりや人とのつながりから居場所づくりの大切さを感じました。もともと八王子市の消防団音楽隊で広報活動をしています。ここでは働きながら、学生で学びながら、主婦として子育てをしながら音楽隊で活動している人たちがいます。日本全国の中でも消防団で音楽隊のあるところは珍しいです。

ここで出会った仲間たちと「みんなが喜ぶことをしたい」「好きな音楽で歌ったり演奏したりすることで人と人を繋げる活動をしたい」「居心地のいい場所を作りたい」と思うようになりました。浅川市民センターで「浅川のつながる会」を推進しているハチサボ、高齢者医療をしている損保の家ともつながりが出来ました。これからいろんなイベントに出演したり高齢者施設に出向いたりして活動の輪を広げていきたいと考えています。

そもそも、このような活動を始めようと思ったのは、「ACT 八王子たすけあいワーカーズバードハウス」が浅川市民センターで「ここっと」という名前で料理・編み物・居場所づくりをしていました。今年の6月に活動を終了し、その後に新しい「居場所づくり」として始めたのが「音楽を通しての居場所づくり」です。まだ、始まったばかりなので一緒に活動したい方がいましたら、大歓迎です。下記の活動が始まりますので一度見学に来てみませんか。



早速 10月11日（日）桑都の杜オープン（10月3日）記念でコンサートをします。13時～30分程。新しい図書館の開館に合わせて本をテーマに童謡など演奏します。仲間はピアノ、フルート、声楽が得意な人たち4人です。ANAさんは、おもに企画を考えます。もともと音楽が好きで得意なのは管楽器です。よかったら見に来てください。

また、10月17日（土）は、高尾駅踏み切り近くの損保の家で「地域とつながろう会」の演奏会をします。14時から。ここは関係者しか入れませんが、こんな風に少しずつ活動を始めています。好きな音楽を通して演奏したり歌ったり「誰もが一人じゃない」「あなたには仲間がいるよ」と背中を押していきたいです。音楽は時として言葉を超える力を持つと信じています！！

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしております。